

【専門教育科目/看護の展開/精神看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神看護学実習		必修	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
石野 徳子 他	415	t.ishino	木・金曜日 14:30～17:00		
授業の目的・概要	精神に機能障害をもち、入院治療を受けている人と地域で生活している人に必要な看護の実践について学び、精神看護の実践が行える基礎的知識・技術・倫理的態度を修得することを目的とする。概要として、提示した事例を通し精神機能に障害をもつ人の発達状況・家族歴、病気発症などの理解を深めた上で、一連の看護過程を展開する。また、精神障害者が地域で生活を送るための、地域生活支援の理解、S S T の実際の理解、精神科における他職種との連携やチーム医療の意義および看護の役割を学ぶ。病院と学内で実施する。授業については学内および同時双方向による遠隔授業で行う。				
学習上の助言	精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱで習得した知識を踏まえて、精神看護対象者のニーズを見出すために、各人の感性を活かして人間関係を形成することが援助への第一歩となる。				
教科書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎/著:武井麻子/医学書院/2020 第5版 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開/著:武井麻子/医学書院/2020 第5版 [2冊指定]				
参考書	・精神看護第2版(パーフェクト臨床実習ガイド)/編:萱間真美/照林社/2019 ・看護学生のための精神看護実習 NOTE/監:日本精神科看護技術協会/中央法規出版/2016				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	精神科病院・病棟の環境や管理の方法と治療・看護の関連を理解できる。	HSU (3)、(4)、NS (1)～(5)			
②	対象者を支援する様々な精神科専門職種との関連、看護職の役割と機能を理解できる。	HSU (3)、(4)、NS (1)～(5)			
③	精神科医療における治療法及び社会復帰活動についての援助の方法を理解できる。	HSU (3)、(4)、NS (1)～(5)			
④	提示された事例の看護過程を展開することができる。	HSU (3)、(4)、NS (1)～(5)			
⑤	提示した対象者の事例を通し、対象者の特性、健康問題、ストレスについて理解することができる。	HSU (3)、(4)、NS (1)～(5)			
⑥	実習を通して自分の精神看護に対する見方・考え方を明確にできる。	HSU (3)、(4)、NS (1)～(5)			
⑦	学生が自らを最大限に活かしながら関わる必要性を明確にできる。	HSU (3)、(4)、NS (1)～(5)			
授 業 計 画					
1.実習時期 :3年次後期 2単位 2.実習期間 :2週間 令和4年10月～令和5年2月 3.実習場所 :病院および学内 1グループは6～7人で編成する。 4.実習内容 ・病院実習および学内実習とする。学内では対面授業とオンライン(Teamsを活用)による講義・演習を行う。 ・DVD及び撮影動画の活用 ①精神科看護・精神病院の理解の動画視聴、②精神科病院での実習イメージ作り、③地域生活支援、④当事者の理解、⑤S S T (社会生活技能訓練)、⑥他職種の理解・看護過程の展開については、自己学習後、グループワークを行う。 5.実習スケジュール					
		実習内容	実施場所		
1 週 目	1日目	実習オリエンテーション (実習スケジュール、実習に臨む注意事項など)	学内		
	2日目	病棟オリエンテーション/患者紹介・患者対応/OT説明	病院		
	3日目	患者対応/他病棟説明/CP・PSW説明	病院		
	4日目	ディケア見学/患者対応/最終カンファレンス(病院)	病院		
	5日目	プロセスレコード検討/事例検討の自己学習	学内		
2 週 目	6日目	ロールプレイ演習/事例検討(自己学習)アセスメント	学内		
	7日目	社会復帰関連施設の見学/DVD視聴	施設・学内		
	8日目	事例検討(自己学習)目標・アセスメント・問題点・対策	学内		
	9日目	事例・発表準備/看護過程発表	学内		
	10日目	実習のまとめ/記録の整理/評価面接	学内		

【専門教育科目/看護の展開/精神看護学】

学習課題・学習時間(時間)							
精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの復習をし、実習要項を読み込んでおくこと。							
必要時間: 6時間							
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	70	10	0	20	100
総合 力 指 標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	10	0	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	10	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10
	取り組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
問題を発見・解決する力		0	10	0	0	0	10
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
レポート	①	✓	実習記録、課題レポート、最終レポートなどの内容について、担当教員間の意見を参考にして評価する。				実習記録などについてコメントを伝える。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
その他	①	✓	看護過程展開の記録、実習に取り組む姿勢・意欲・協調性等を総合的に判断する。 学生が達成すべき行動目標①～⑥について自己評価を行い、実習最終日に実習指導教員と面接を実施する。				実習最終日の面接で総合的な評価を行い、学生が今後の課題を見出せるようにする
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	森川 三郎						
教 員 の 実 務 経 験	担当教員は豊富な臨床経験がある。石野は、一般診療科、精神科病院を含み30年の臨床経験を有する。森川は、精神科病院での臨床経験を20年以上有する。						
実 践 的 授 業 の 内 容	担当教員が一般診療科および精神科の臨床現場での長い経験に基づいて指導する。 特に、組織におけるチーム医療の中の看護職の役割を理解すると共に、座学と臨床現場における知識の統合の修得を目指す。						
そ の 他	人と関わるためにはエネルギーが必要である。まず自分自身の心身の状態を自己管理して整え、自分の持ち味を活かして日々の実習に臨んで下さい。 ・Teamsを使用した同時方向的型授業を行う。授業前に提示した授業資料に目を通しておいて下さい。 ・通信容量の安定したWi-Fi環境を推奨します。 ・今後、新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラパスの変更の可能性があります。						